

IV 平成29年度学校関係者評価委員会から

- 1 実施日 平成29年2月23日（金）
- 2 場 所 羽黒小学校 校長室
- 3 参加者 学校評議員：小林秀也氏 輿水 均氏 剣持孝弘氏
P T A会長：降矢賢之氏
校長：戸澤智紀
教頭：山本英寿
教務主任：樋川重行

4 意見等

① 学校運営に関すること

- 自己評価等のアンケート結果から課題点が明確になっている。しかし、重要なのはこれらの課題に対して、具体的改善策を策定し実践することである。P D C Aサイクル実効的に機能させ学校の教育課題に取り組み、学校改善につなげることが大切である。

② 教育活動に関すること

- 本日の「6年生を送る会」は、心が通い合うすばらしい会であった。下級生は、6年生に感謝の気持ちを伝えようと呼びかけや歌など自分の力を精一杯発揮していた。また、6年生から下級生への言葉にも感動を受けた。縦割り活動を通して、6年生はリーダーとして頑張り、縦割り班の仲間とつながり、よりよい人間関係ができ、その中で自己肯定感や思いやりの心を育ててきていると感じた。5年生もこの会を成功させようとしてしっかり準備をしてきたことや会の運営でもしっかりと言葉と態度が見られ、立派であった。このような行事を通して、子供たち一人一人が自分の役割を一生懸命果たして、自信をつけて成長していくことを痛感した。
- 学力定着・向上の取組について、個に応じた指導の工夫を熱心に行っているが、今後も継続して取り組んでほしい。また、羽黒小学校の家庭学習の取組としてレコーディング・スタディーがあるが、家庭学習の習慣化に向けて、家庭との連携をさらに深めていく必要がある。
- いじめの問題は、大人の世界の縮図であると思う。保護者の中にもいじめがあり、子どもたちは、そうした大人の世界を見ているのだと思う。人権教育の充実と共に、保護者への啓発も必要であると感じる。また、教師と児童との信頼関係を基盤に、いじめの早期発見・早期対応が大切である。課題解決には、保護者との連携を図り、適切に対応してほしい。

③ 学校と地域・家庭との連携に関すること

- 今年度「あいさつや言葉遣い」について重点的に取り組んだことにより、地域であいさつができるようになり、子どもたちの変容を感じている。これからも、継続的に取り組んでほしい。
- 地域の行事に積極的に参加するなど、協力的な家庭が多い。地域との結びつきを強くすることにより、防犯やいじめ防止など安心・安全な教育環境を整えることになり、地域との連携が大切であると考えている。
- 昔と比べて人間とのかかわりが希薄になっていると感じる。地域の行事などを人との関わりを大切にしていきたい。今後も地域のお祭りなどの行事に積極的に参加できるようにしていきたい。

